

活用事例	<b>3</b> <b>9</b> 授業中に地震・津波が発生した場合の隣接する学校との二次避難場所までの合同避難訓練 【特色】 保育所・小学校・中学校・保護者・消防・防災部局・総合事務所による合同避難訓練		
学校名	萩市立田万川保育園・多磨小学校・田万川中学校		
日時	平成25年6月13日(木) 1・2時間目, 5・6時間目		
場所	運動場及び多磨小学校	参加者	田万川保育園児、多磨小学校児童、田万川中学校生徒、保護者、教職員、消防署職員、萩市防災安全課、田万川総合事務所職員

## 1 訓練のねらい

(1) 授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るため、避難経路の安全を確認しながら二次避難場所まで無言で迅速に避難する能力を高める。

併せて、教職員の避難指示、避難誘導、安全確保、通報等の対応能力を高める。

(2) 防災教室を通して、地震や土砂崩れなどの災害が発生した場合の避難の方法等について知る。

また、地域のハザードマップ等を通して地域の防災に関する情報に興味をもつ。

(3) 起震車や煙体験を通して、災害時の対応の方法について考えさせる。



- (2) 防災教室（多磨小体育館）
- ・萩市防災安全課職員による防災教室
  - ・災害発生メカニズム
  - ・適切な避難方法について
  - ・田万川地域のハザードマップについて



## 2 訓練の概要

### (1) 避難訓練

- ・地震発生（安全の確保）
- ・教職員による情報収集
- ・避難場所の確定（本校グラウンド）
- ・放送による避難指示
- ・生徒の誘導
- ・一次避難場所での人員確認
- ・津波警報発令
- ・二次避難場所（多磨小）への避難
- ・二次避難場所での人員確認
- ・教育委員会への生徒・教職員の避難状況の報告



- (3) 起震車による地震体験  
 ・震度7程度の揺れを体験する。



- (4) 煙中体験  
 ・火災発生時の避難の困難さについて疑似体験する。



- (5) その他（非常食の確認）



### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 防災教育テキスト「自然災害から自分の命を守るために」等の資料を活用することで、災害の発生メカニズムについて知るとともに、災害発生時に自分の命を守るための行動について理解できた。
- ◇ 災害発生時に、自分の安全確保ができた場合、家族や地域住民の協力の中で、安全な範囲で自分たちに何ができるのかを考えることができた。
- ◇ 地域のハザードマップを確認することで、地域で予想される災害に対する関心を高め、地域内の危険箇所、避難場所等の確認ができた。
- ◇ 避難訓練を通して、避難時の留意点について知ることができた。
- ◇ 田万川地域の幼・小・中、地域住民合同の避難訓練を実施したことで、防災に関する意識の高まりが見えた。

#### 【課題】

- ◆ 避難指示、避難誘導等は迅速かつ確実に行うことができたものの、ブラインド方式でなく、生徒・教職員へ事前連絡していたため、今後の訓練では、教職員を含めて、予期せぬ状況下での訓練を実施し、安全な避難ができるか検証する必要がある。
- ◆ 起震車体験では震度7程度の揺れを体験したものの、当事者意識に欠ける場面が見られた。地震発生時に取るべき行動について再度確認する必要がある。
- ◆ 今回の避難訓練にとどまらず、災害を意識した訓練を日常的に行っていく必要がある。
- ◆ 教職員の適切な指示・誘導のための訓練であるという認識を高めておく必要がある。
- ◆ 避難後、避難所での生活体験等についても実施していく必要がある。